



きれいな学校 輝く笑顔 ~ナンバーワンスクールを目指して!~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関 2 8 2

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

げん  
厳にして慈

~昭和から平成へ 小隊長から学んだこと~

校長 澤田純一

今年は大寒波が日本列島を覆い、例年になく寒い日が続いています。体調管理に十分留意し、風邪などひかぬよう努めてください。

さて、毎年この季節になると、思い出すことがあります。まして、今年のように、関東地方でも雪が舞うような冬は、なおさらです。皆さんは、「大喪の礼（たいそうのれい）」というのを聞いたことがありますか。これは国の儀式として行われる天皇の葬儀の事をいいます。その時、私が警察官として携（たずさ）わった時の事を話しましょう。

この警備は、世界 164 か国から大統領や首相などの、いわゆるVIPと呼ばれる人々が弔問（ちょうもん）に来日するため、「史上最大の警備」と言われました。（1月7日より東京都内は全国から警察官が集まり、厳戒態勢でした。）そして、2月24日当日は、葬列が皇居（千代田区）から高尾（お墓がある場所）にかけて、およそ40kmを通行します。私の任務は、その沿道を埋め尽くす市民の安全を守ること、加えて、青梅街道を通行する葬列（車30台、サイドカー30台、約800メートルの行列）を滞りなく通過させることでした。青梅街道には30メートル間隔で警察官が立哨（りっしょう）していましたが、私もその中の一人でした。

小雪の混じる天候でした。恐らく気温も平年より低かったと記憶しています。そのような中、間もなく葬列が私の前を通る時刻となりました。背筋に緊張が走ります。その時です。私の目の前で、一人のおばあさんが転んでしまいました。満員電車のような状況の中、おばあさんは立ち上がることができません。私は、助けに行こうと思いましたが、行くことができません。（警察官は、勝手に持ち場を離れると、勤務規定違反で罰せられてしまうのです。）どうしたらよいのか困っているところ「澤田巡査、行ってやれ！」と小隊長の声がしました。それは小隊長の「粹（いき）なはからい」でした。私は、おばあさんのところに駆けつけ、腕を抱きかかえながら引き起こしました。おばあさんは「どうもありがとう。」と私を見ながら笑顔を見せてくれました。

時代は、昭和から平成に変わりました。時代の変わり目に、激務ではありましたが、このような温かみのある小隊長に出会えたことを、幸せに思っています。「厳にして慈」厳しさと優しさを兼ね備えたことを言います。また、時折教育に大切なこととして用いられます。「厳格でありながら、慈愛の情を忘れないというのは、子どもを扱う上で大切なことである」ということでしょうか。

校長として、皆さん333名の未来を託されています。厳しくも優しくありたいと思います。（少々修業が必要です。）そして人生、遠回りをしましたが無駄なことは一つもないと感じています。焦（あせ）らず、じっくり歩いていきましょうね！